

大阪市の推計人口年報（平成 27 年）

～平成 27 年 10 月 1 日現在の人口と 1 年間の人口異動の動向～

平成 28 年 12 月

大 阪 市

大阪市の推計人口（平成 27 年 10 月 1 日現在） 結果の概要

平成 27 年国勢調査結果により修正した平成 26 年 10 月 1 日の修正推計人口と平成 27 年 10 月 1 日に実施された国勢調査結果を比較し、「大阪市の推計人口年報（平成 27 年）」として、とりまとめました。

目 次

1	人 口 総 数	1
2	男 女 別 人 口	1
3	世 帯 数	2
4	区 別 人 口	2
5	区 別 世 帯 数	5
6	人 口 異 動	7

《利用上の注意》

・推計方法について

推計人口（毎月 1 日現在）は、平成 24 年 7 月までは、「住民基本台帳」及び「外国人登録」の月々の増減を国勢調査結果の人口に加減して算出し、平成 24 年 8 月以降は、外国人住民が住民基本台帳に含まれることから、「住民基本台帳」の月々の増減を加減して算出している。本資料では平成 23 年から平成 26 年については平成 27 年国勢調査結果により遡及して修正した推計人口を用いており、平成 27 年は平成 27 年国勢調査結果を用いた。

・人口異動について

推計人口においては、出生と死亡の差を自然動態（自然増減）とし、転入と転出の差を社会動態（社会増減）とした。転入、転出は市内の区相互間を含んでいる。

人口異動の自然増減率、出生率、死亡率、社会増減率、転入率、転出率は、前年 10 月 1 日現在の人口 1000 人に対する割合（千分比）である。※ 単位：‰（パーミル）

1 人口総数

平成 27 年 10 月 1 日の大阪市の人口は 269 万 1185 人で、前年（平成 26 年 10 月 1 日）と比べると 11,377 人（0.4%）の増加となった。

表 1 人口の推移

年次	人口 (人)	増減数 (人)	増減率 (%)
17年	2,628,811	4,036	0.2
18年	2,634,944	6,133	0.2
19年	2,642,854	7,910	0.3
20年	2,650,670	7,816	0.3
21年	2,659,796	9,126	0.3
22年	2,665,314	5,518	0.2
23年	2,668,972	3,658	0.1
24年	2,674,154	5,182	0.2
25年	2,678,663	4,509	0.2
26年	2,679,808	1,145	0.0
27年	2,691,185	11,377	0.4

1 太字は国勢調査結果。その他は各年10月1日の推計人口。

2 国勢調査以外の年については国勢調査結果により修正を行っているため、人口の増減数と後述の人口異動の増減数とは一致しない。

2 男女別人口

平成 27 年の人口を男女別にみると、男性が 130 万 2562 人、女性が 138 万 8623 人となっている。

男女別の人口を平成 26 年と比べると、男性が 5110 人（0.4%）増、女性が 6267 人（0.5%）増とそれぞれ増加している。人口性比（女性 100 人に対する男性の数）は 93.8 となっている。

表 2 男女別人口の推移

年次	男（人）		女（人）		性比
		増減数（人）		増減数（人）	
17年	1,280,325	302	1,348,486	3,734	94.9
18年	1,280,924	599	1,354,020	5,534	94.6
19年	1,284,596	3,672	1,358,258	4,238	94.6
20年	1,287,428	2,832	1,363,242	4,984	94.4
21年	1,291,950	4,522	1,367,846	4,604	94.5
22年	1,293,798	1,848	1,371,516	3,670	94.3
23年	1,294,751	953	1,374,221	2,705	94.2
24年	1,296,740	1,989	1,377,414	3,193	94.1
25年	1,297,931	1,191	1,380,732	3,318	94.0
26年	1,297,452	△ 479	1,382,356	1,624	93.9
27年	1,302,562	5,110	1,388,623	6,267	93.8

1 太字は国勢調査結果。その他は各年10月1日の推計人口。

2 国勢調査以外の年については国勢調査結果により修正を行っているため、人口の増減数と後述の人口異動の増減数とは一致しない。

3 世帯数

平成 27 年の世帯数は 135 万 4793 世帯で、1 世帯当たり人員は 1.99 人となっている。

これを平成 26 年と比べると、9738 世帯 (0.7%) の増加となっている。

1 世帯当たり人員は減少傾向にあり、平成 27 年についても、平成 26 年から横ばいで 1.99 人となっている。

表 3 世帯数の推移

年次	世帯数 (世帯)	増減数 (世帯)		増減率 (%)	1 世帯当たり 人員 (人)
		増減数 (世帯)	増減率 (%)		
17年	1,245,012	12,030	1.0	2.11	
18年	1,261,113	16,101	1.3	2.09	
19年	1,273,724	12,611	1.0	2.07	
20年	1,289,751	16,027	1.3	2.06	
21年	1,305,639	15,888	1.2	2.04	
22年	1,317,990	12,351	0.9	2.02	
23年	1,324,740	6,750	0.5	2.01	
24年	1,332,002	7,262	0.5	2.01	
25年	1,338,910	6,908	0.5	2.00	
26年	1,345,055	6,145	0.5	1.99	
27年	1,354,793	9,738	0.7	1.99	

太字は国勢調査結果。その他は各年10月1日の推計人口による。

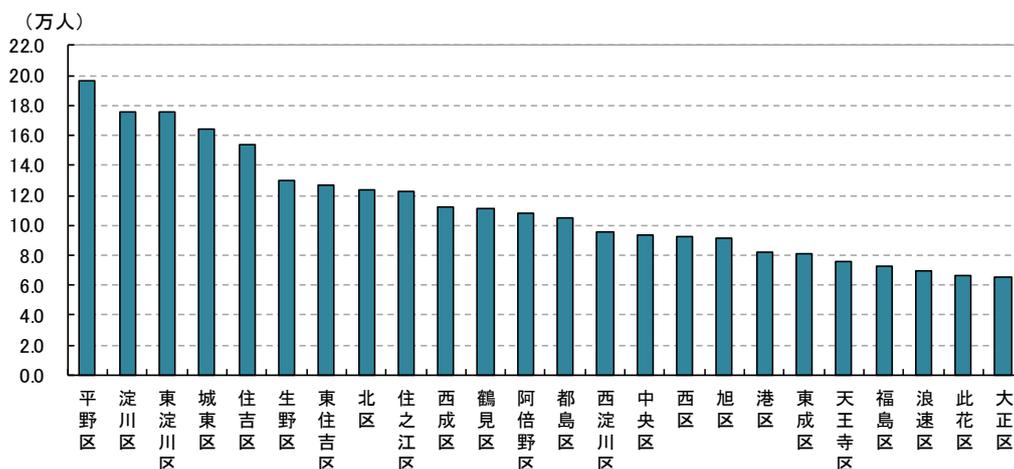
4 区別人口

平成 27 年の人口を区別にみると、平野区が 19 万 6633 人と最も多く、次いで淀川区が 17 万 6201 人、東淀川区が 17 万 5530 人、城東区が 16 万 4697 人、住吉区が 15 万 4239 人と続いている。

この 1 年間の人口増減数を区別にみると、中央区が 4106 人と最も多く、次いで北区が 2995 人、西区が 2690 人、浪速区が 2597 人、天王寺区が 1230 人など、引き続き市域中心部を中心に増加している一方、西成区が 2145 人減と最も少なく、次いで住之江区が 922 人減、平野区が 795 人減、大正区が 788 人減、東住吉区が 612 人減と続いている。

人口増減率は中央区が 4.6% と最も高く、次いで浪速区が 3.9%、西区が 3.0%、北区が 2.5%、天王寺区が 1.7% など、人口増減数と同様に市域中心部で高くなっている一方、西成区が 1.9% 減と最も低く、次いで大正区が 1.2% 減、住之江区が 0.7% 減、東住吉区が 0.5% 減、平野区が 0.4% 減と続いている。

図 1 区別の人口



平成27年国勢調査結果による。

表4-1 区別の人口

区名	人口（人）		対前年（平成26年）	
	平成27年	平成26年	増減数（人）	増減率（％）
大 阪 市	2,691,185	2,679,808	11,377	0.4
北 区	123,667	120,672	2,995	2.5
都 島 区	104,727	104,546	181	0.2
福 島 区	72,484	71,765	719	1.0
此 花 区	66,656	66,542	114	0.2
中 央 区	93,069	88,963	4,106	4.6
西 区	92,430	89,740	2,690	3.0
港 区	82,035	82,067	△ 32	△ 0.0
大 正 区	65,141	65,929	△ 788	△ 1.2
天 王 寺 区	75,729	74,499	1,230	1.7
浪 速 区	69,766	67,169	2,597	3.9
西 淀 川 区	95,490	95,762	△ 272	△ 0.3
淀 川 区	176,201	175,013	1,188	0.7
東 淀 川 区	175,530	175,668	△ 138	△ 0.1
東 成 区	80,563	80,263	300	0.4
生 野 区	130,167	130,520	△ 353	△ 0.3
旭 区	91,608	91,591	17	0.0
城 東 区	164,697	164,251	446	0.3
鶴 見 区	111,557	111,199	358	0.3
阿 倍 野 区	107,626	107,320	306	0.3
住 之 江 区	122,988	123,910	△ 922	△ 0.7
住 吉 区	154,239	154,052	187	0.1
東 住 吉 区	126,299	126,911	△ 612	△ 0.5
平 野 区	196,633	197,428	△ 795	△ 0.4
西 成 区	111,883	114,028	△ 2,145	△ 1.9

平成27年は国勢調査による人口。

平成26年は平成27年国勢調査結果により修正された10月1日現在の推計人口。

表4-2 人口増減数（上位7区）

順位	平成24年～25年		平成25年～26年		平成26年～27年	
	区名	増減数（人）	区名	増減数（人）	区名	増減数（人）
1	中央区	3,040	北区	3,170	中央区	4,106
2	北区	2,873	中央区	2,822	北区	2,995
3	浪速区	1,824	西区	2,095	西区	2,690
4	淀川区	1,456	天王寺区	938	浪速区	2,597
5	福島区	1,455	浪速区	896	天王寺区	1,230
6	西区	1,343	淀川区	612	淀川区	1,188
7	天王寺区	1,295	阿倍野区	566	福島区	719

表4-3 人口増減数（下位7区）

順位	平成24年～25年		平成25年～26年		平成26年～27年	
	区名	増減数（人）	区名	増減数（人）	区名	増減数（人）
1	西成区	△ 1,870	西成区	△ 2,299	西成区	△ 2,145
2	東住吉区	△ 998	住之江区	△ 1,119	住之江区	△ 922
3	大正区	△ 943	東淀川区	△ 989	平野区	△ 795
4	生野区	△ 810	生野区	△ 986	大正区	△ 788
5	住之江区	△ 810	平野区	△ 956	東住吉区	△ 612
6	港区	△ 702	大正区	△ 840	生野区	△ 353
7	城東区	△ 692	東住吉区	△ 829	西淀川区	△ 272

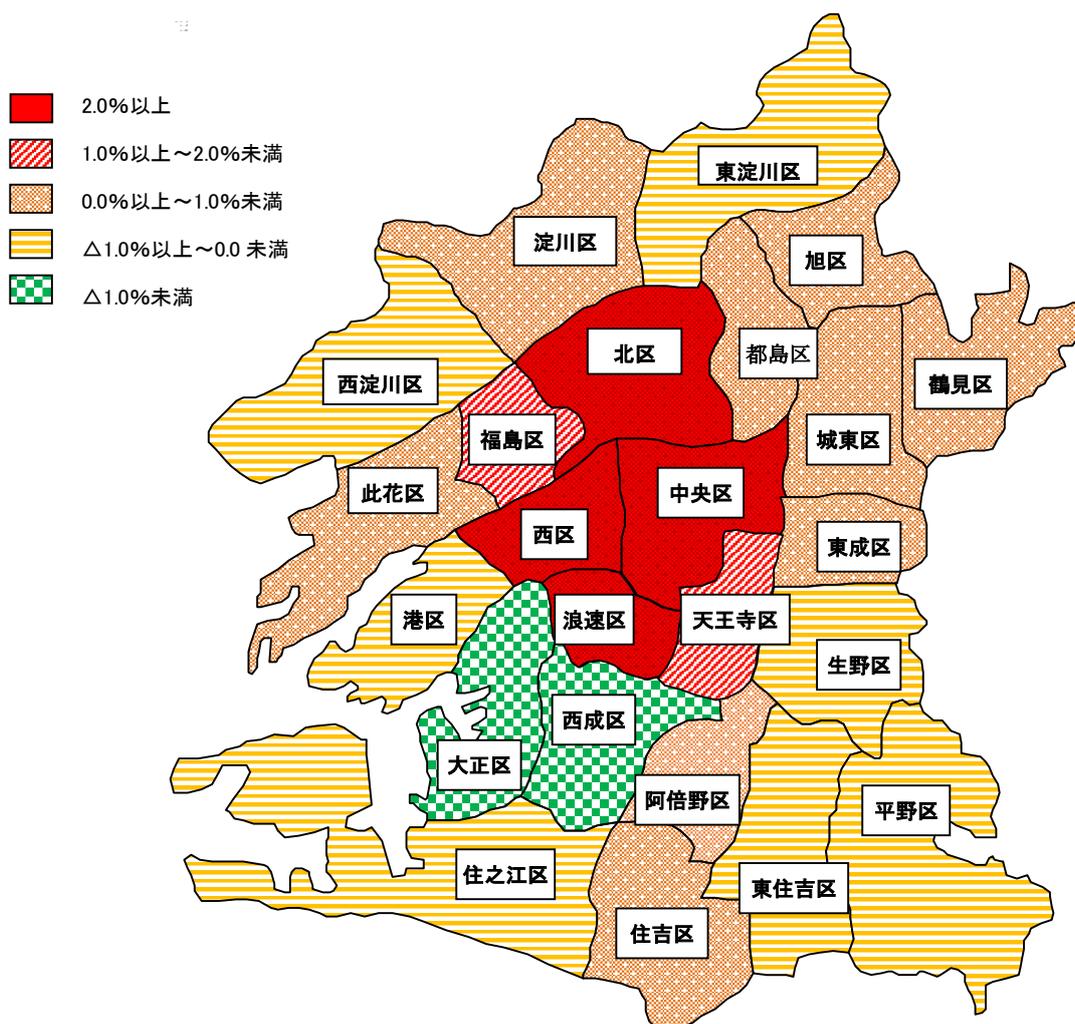
表4-4 人口増減率（上位7区）

順位	平成24年～25年		平成25年～26年		平成26年～27年	
	区名	増減率（%）	区名	増減率（%）	区名	増減率（%）
1	中央区	3.7	中央区	3.3	中央区	4.6
2	浪速区	2.8	北区	2.7	浪速区	3.9
3	北区	2.5	西区	2.4	西区	3.0
4	福島区	2.1	浪速区	1.4	北区	2.5
5	天王寺区	1.8	天王寺区	1.3	天王寺区	1.7
6	西区	1.6	福島区	0.7	福島区	1.0
7	淀川区	0.8	阿倍野区	0.5	淀川区	0.7

表4-5 人口増減率（下位7区）

順位	平成24年～25年		平成25年～26年		平成26年～27年	
	区名	増減率（%）	区名	増減率（%）	区名	増減率（%）
1	西成区	△ 1.6	西成区	△ 2.0	西成区	△ 1.9
2	大正区	△ 1.4	大正区	△ 1.3	大正区	△ 1.2
3	港区	△ 0.8	住之江区	△ 0.9	住之江区	△ 0.7
4	東住吉区	△ 0.8	港区	△ 0.9	東住吉区	△ 0.5
5	住之江区	△ 0.6	生野区	△ 0.7	平野区	△ 0.4
6	西淀川区	△ 0.6	西淀川区	△ 0.7	西淀川区	△ 0.3
7	生野区	△ 0.6	東住吉区	△ 0.6	生野区	△ 0.3

図2 区別人口増減率の分布（平成26年～27年）



5 区別世帯数

平成27年の世帯数を区別にみると、淀川区が9万4460世帯と最も多く、次いで東淀川区が9万2536世帯、平野区が8万8960世帯、城東区が7万6455世帯、北区が7万4182世帯と続いている。世帯数が最も少ない区は大正区の2万9209世帯で、次いで此花区が3万712世帯、福島区が3万7510世帯と続いている。

この1年間の世帯数の増減数を区別にみると、中央区が2547世帯と最も多く、次いで北区が2107世帯、西区が1404世帯と続いている一方、西成区が1504世帯減と最も少なく、次いで東住吉区が338世帯減、大正区が271世帯減と続いている。

世帯数の増減率では、中央区が4.5%と最も高く、次いで浪速区が3.0%、北区が2.9%など、市域中心部で高い増減率となっている一方、西成区が2.1%減と最も低く、次いで大正区が0.9%減、東住吉区が0.6%減と続いている。

1世帯当たり人員をみると、鶴見区が2.41人と最も多く、次いで大正区が2.23人、西淀川区が2.22人、平野区が2.21人、東住吉区が2.19人と続いている。一方、最も少ない区は浪速区の1.47人であり、次いで中央区が1.58人、西成区が1.62人と続いている。

表5-1 区別世帯数

	世帯数（世帯）		対前年（平成26年）		1世帯当たり 人員（人）
	平成27年	平成26年	増減数（世帯）	増減率（%）	平成27年
大阪市	1,354,793	1,345,055	9,738	0.7	1.99
北区	74,182	72,075	2,107	2.9	1.67
都島区	51,549	51,275	274	0.5	2.03
福島区	37,510	37,091	419	1.1	1.93
此花区	30,712	30,493	219	0.7	2.17
中央区	59,084	56,537	2,547	4.5	1.58
西区	52,138	50,734	1,404	2.8	1.77
港区	40,348	40,216	132	0.3	2.03
大正区	29,209	29,480	△271	△0.9	2.23
天王寺区	38,058	37,379	679	1.8	1.99
浪速区	47,541	46,149	1,392	3.0	1.47
西淀川区	42,924	42,979	△55	△0.1	2.22
淀川区	94,460	93,472	988	1.1	1.87
東淀川区	92,536	92,311	225	0.2	1.90
東成区	39,683	39,465	218	0.6	2.03
生野区	63,622	63,442	180	0.3	2.05
旭区	43,700	43,630	70	0.2	2.10
城東区	76,455	76,033	422	0.6	2.15
鶴見区	46,358	45,962	396	0.9	2.41
阿倍野区	50,104	50,168	△64	△0.1	2.15
住之江区	56,920	56,889	31	0.1	2.16
住吉区	71,718	71,934	△216	△0.3	2.15
東住吉区	57,797	58,135	△338	△0.6	2.19
平野区	88,960	88,477	483	0.5	2.21
西成区	69,225	70,729	△1,504	△2.1	1.62

平成27年は国勢調査による世帯数。

平成26年は平成27年国勢調査結果により修正された10月1日現在の世帯数。

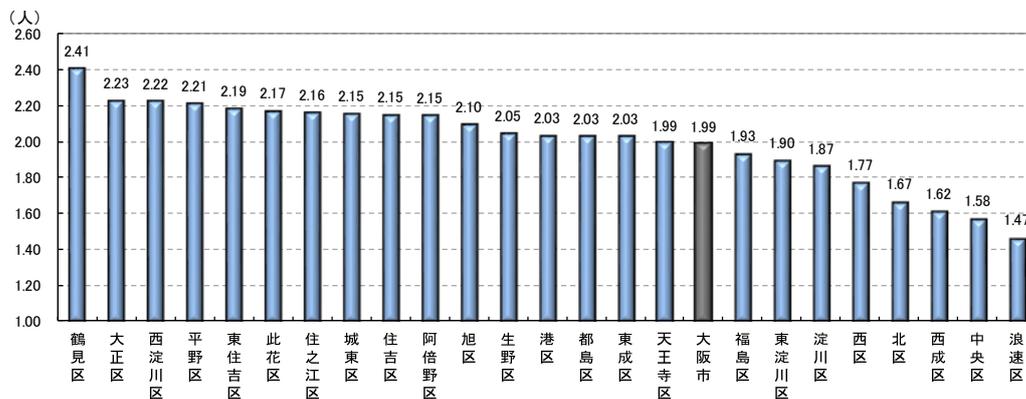
表5-2 世帯数及び1世帯当たり世帯人員（上位・下位5区）

世帯数（世帯）			
上位5区		下位5区	
淀川区	94,460	大正区	29,209
東淀川区	92,536	此花区	30,712
平野区	88,960	福島区	37,510
城東区	76,455	天王寺区	38,058
北区	74,182	東成区	39,683

1世帯当たり世帯人員(人)			
上位5区		下位5区	
鶴見区	2.41	浪速区	1.47
大正区	2.23	中央区	1.58
西淀川区	2.22	西成区	1.62
平野区	2.21	北区	1.67
東住吉区	2.19	西区	1.77

平成27年国勢調査結果による。

図3 区別1世帯当たり世帯人員



平成27年国勢調査結果による。

6 人口異動（前年10月中から当年9月中の合計）

(1) 自然動態

平成27年の自然動態（出生と死亡の差）は5742人の減少となり、平成26年の自然動態（5300人減）と比べると、442人の減少となった。また、自然増減率は前年よりわずかに下回り、2.1%減となっている。

自然増減数を区別にみると、西区が505人と最も多く、次いで中央区が365人、鶴見区が309人、北区が296人、福島区が269人など6区で増加となっている一方、西成区が2124人減と最も少なく、次いで生野区が1002人減、平野区が753人減、東住吉区が552人減と続いている。

自然増減率では、西区が5.6%と最も高く、次いで中央区が4.1%、福島区が3.7%と続いている一方、西成区が18.6%減と最も低く、次いで生野区が7.7%減、大正区が5.9%減と続いている。

ア 出生

平成27年の出生数は2万2972人で、平成26年（2万2810人）と比べると162人の増加となり、出生率は8.6%（前年8.5%）となっている。

出生数を区別にみると、淀川区が1586人と最も多く、次いで平野区が1535人、東淀川区が1459人、城東区が1435人と続いている。出生数が最も少ない区は大正区の456人となっている。

出生率では、西区が12.1%と最も高く、次いで福島区が11.7%、中央区が11.4%、鶴見区が11.3%と続いている。最も低いのは西成区の4.4%となっている。

イ 死亡

平成27年の死亡数は2万8714人で、平成26年（2万8110人）と比べると604人の増加となり、死亡率は10.7%（前年は10.5%）となっている。

死亡数を区別にみると、西成区が2627人と最も多く、次いで平野区が2288人、生野区が1821人、東淀川区が1681人と続いている。死亡数が最も少ない区は福島区と天王寺区の568人である。

死亡率では、西成区が23.0%と最も高く、次いで生野区が14.0%、大正区が12.9%と続いている。最も死亡率が低いのは西区の6.5%となっている。

ウ 外国人の自然動態

平成27年の自然動態のうち、外国人は437人の減少となり、平成26年の自然動態（366人減）と比べると、71人の減少となった。

外国人の出生数は539人で、平成26年（574人）と比べると35人の減少となっており、死亡数は976人で、平成26年（940人）と比べると36人の増加となっている。

表6-1 自然動態の推移

年次	自然増減			出生			死亡		
	増減数 (人)	対前年 (人)	自然 増減率 (%)	出生数 (人)	対前年 (人)	出生率 (%)	死亡数 (人)	対前年 (人)	死亡率 (%)
17年	△ 1,878	△ 2,077	△ 0.7	22,706	△ 975	8.7	24,584	1,102	9.4
18年	△ 1,412	466	△ 0.5	22,823	117	8.7	24,235	△ 349	9.2
19年	△ 1,660	△ 248	△ 0.6	23,568	745	8.9	25,228	993	9.6
20年	△ 1,506	154	△ 0.6	24,028	460	9.1	25,534	306	9.7
21年	△ 1,703	△ 197	△ 0.6	23,346	△ 682	8.8	25,049	△ 485	9.5
22年	△ 3,184	△ 1,481	△ 1.2	23,608	262	8.9	26,792	1,743	10.1
23年	△ 3,945	△ 761	△ 1.5	23,766	158	8.9	27,711	919	10.4
24年	△ 4,337	△ 392	△ 1.6	23,067	△ 699	8.6	27,404	△ 307	10.3
25年	△ 5,305	△ 968	△ 2.0	23,234	167	8.7	28,539	1,135	10.7
26年	△ 5,300	5	△ 2.0	22,810	△ 424	8.5	28,110	△ 429	10.5
27年	△ 5,742	△ 442	△ 2.1	22,972	162	8.6	28,714	604	10.7

- 1 自然増減数、出生数、死亡数は前年10月中から当年9月中の合計である。
- 2 自然増減率、出生率、死亡率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰（パーミル）である。
- 3 平成17年、22年、27年以外の年の推計人口は、国勢調査結果により修正を行っているため、人口異動の増減数と前述の人口推移の増減数とは一致しない。

表6-2 区別自然動態

区名	自然 増減数 (人)	自然 増減率 (%)	出生数 (人)	出生率 (%)	死亡数 (人)	死亡率 (%)
大 阪 市	△ 5,742	△ 2.1	22,972	8.6	28,714	10.7
北 区	296	2.5	1,210	10.0	914	7.6
都 島 区	△ 16	△ 0.2	911	8.7	927	8.9
福 島 区	269	3.7	837	11.7	568	7.9
此 花 区	△ 77	△ 1.2	635	9.5	712	10.7
中 央 区	365	4.1	1,016	11.4	651	7.3
西 区	505	5.6	1,088	12.1	583	6.5
港 区	△ 340	△ 4.1	614	7.5	954	11.6
大 正 区	△ 392	△ 5.9	456	6.9	848	12.9
天 王 寺 区	191	2.6	759	10.2	568	7.6
浪 速 区	△ 53	△ 0.8	615	9.2	668	9.9
西 淀 川 区	△ 299	△ 3.1	765	8.0	1,064	11.1
淀 川 区	△ 11	△ 0.1	1,586	9.1	1,597	9.1
東 淀 川 区	△ 222	△ 1.3	1,459	8.3	1,681	9.6
東 成 区	△ 255	△ 3.2	651	8.1	906	11.3
生 野 区	△ 1,002	△ 7.7	819	6.3	1,821	14.0
旭 区	△ 429	△ 4.7	697	7.6	1,126	12.3
城 東 区	△ 203	△ 1.2	1,435	8.7	1,638	10.0
鶴 見 区	309	2.8	1,261	11.3	952	8.6
阿 倍 野 区	△ 142	△ 1.3	963	9.0	1,105	10.3
住 之 江 区	△ 441	△ 3.6	884	7.1	1,325	10.7
住 吉 区	△ 366	△ 2.4	1,245	8.1	1,611	10.5
東 住 吉 区	△ 552	△ 4.3	1,028	8.1	1,580	12.4
平 野 区	△ 753	△ 3.8	1,535	7.8	2,288	11.6
西 成 区	△ 2,124	△ 18.6	503	4.4	2,627	23.0

- 1 自然増減数、出生数、死亡数は前年10月中から当年9月中の合計である。
- 2 自然増減率、出生率、死亡率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰（パーミル）である。

表 6-3 自然増減率、出生率及び死亡率（上位 7 区）

順位	自然増減率		出生率		死亡率	
	区名	(%)	区名	(%)	区名	(%)
1	西区	5.6	西区	12.1	西成区	23.0
2	中央区	4.1	福島区	11.7	生野区	14.0
3	福島区	3.7	中央区	11.4	大正区	12.9
4	鶴見区	2.8	鶴見区	11.3	東住吉区	12.4
5	天王寺区	2.6	天王寺区	10.2	旭区	12.3
6	北区	2.5	北区	10.0	港区	11.6
7	淀川区	△ 0.1	此花区	9.5	平野区	11.6

自然増減率、出生率、死亡率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰（パーミル）である。

表 6-4 自然動態の推移（外国人）

年次	自然増減			出生			死亡		
	増減数 (人)	対前年 (人)	対前年増加率 (%)	出生数 (人)	対前年 (人)	対前年増加率 (%)	死亡数 (人)	対前年 (人)	対前年増加率 (%)
20年	△ 406	△ 56	△ 16.0	486	△ 25	△ 4.9	892	31	3.6
21年	△ 402	4	1.0	476	△ 10	△ 2.1	878	△ 14	△ 1.6
22年	△ 473	△ 71	△ 17.7	466	△ 10	△ 2.1	939	61	6.9
23年	△ 502	△ 29	△ 6.1	496	30	6.4	998	59	6.3
24年	△ 327	175	34.9	537	41	8.3	864	△ 134	△ 13.4
25年	△ 415	△ 88	△ 26.9	531	△ 6	△ 1.1	946	82	9.5
26年	△ 366	49	11.8	574	43	8.1	940	△ 6	△ 0.6
27年	△ 437	△ 71	△ 19.4	539	△ 35	△ 6.1	976	36	3.8

自然増減数、出生数、死亡数は前年10月中から当年9月中の合計である。

(2) 社会動態

平成 27 年の社会動態（転入と転出の差）は 1 万 8726 人の増加となり、平成 26 年の社会動態（8059 人増）と比べると、1 万 667 人の増加となった。また、社会増減率は 7.0‰（前年は 3.0‰）となっている。

社会増減数を区別にみると、中央区が 3704 人と最も多く、次いで北区が 2713 人、浪速区が 2641 人、西区が 2405 人など 21 区で増加となっている一方、住之江区が 606 人減と最も少なく、次いで大正区が 273 人減、平野区が 223 人減と続いている。

社会増減率では、中央区が 41.6‰と最も高く、次いで浪速区が 39.3‰、西区が 26.8‰、北区が 22.5‰など、社会増減数と同様に市域中心部で高い増加率となっている一方、住之江区が 4.9‰減で最も低く、大正区が 4.1‰減、平野区が 1.1‰減と続いている。

ア 転入

平成 27 年の転入数は 18 万 5808 人で、平成 26 年（17 万 8011 人）と比べると 7797 人の増加となり、転入率は 69.3‰（前年は 66.5‰）となっている。

転入数を区別にみると、中央区が 1 万 4833 人と最も多く、次いで北区が 1 万 3844 人、淀川区が 1 万 3150 人、浪速区が 1 万 1365 人、東淀川区が 1 万 1002 人と続いている。転入数が最も少ない区は大正区の 2361 人である。

転入率では、浪速区が 169.2‰と最も高く、次いで中央区が 166.7‰、西区が 121.4‰、北区が 114.7‰と続いている。転入率でも、大正区が 35.8‰と最も低くなっている。

イ 転出

平成 27 年の転出数は 16 万 7082 人で、平成 26 年（16 万 9952 人）と比べると 2870 人の減少となり、転出率は 62.3‰（前年は 63.4‰）となっている。

転出数を区別にみると、淀川区が 1 万 2077 人と最も多く、次いで北区が 1 万 1131 人、中央区が 1 万 1129 人、東淀川区が 1 万 987 人と続く。転出数が最も少ない区は大正区の 2634 人である。

転出率では、浪速区が 129.9‰と最も高く、次いで中央区が 125.1‰、西区が 94.6‰、北区が 92.2‰と続いている。転出率においても、大正区が 40.0‰と最も低くなっている。

ウ 外国人の社会動態

平成 27 年の社会動態のうち、外国人は 6438 人の増加となり、平成 26 年の社会動態（861 人増）と比べると、5577 人の増加となった。

外国人の転入及び入国数は 2 万 5517 で、平成 26 年（2 万 2206 人）と比べると 3311 人の増加となっており、転出及び出国数は 1 万 9079 人で、平成 26 年（2 万 1345 人）と比べると 2266 人の減少となっている。

表 6-5 社会動態の推移

年次	社会増減			転入			転出		
	増減数 (人)	対前年 (人)	社会 増減率 (‰)	転入数 (人)	対前年 (人)	転入率 (‰)	転出数 (人)	対前年 (人)	転出率 (‰)
17年	8,144	1,293	3.1	179,006	△ 3,911	68.2	170,862	△ 5,204	65.1
18年	8,021	△ 123	3.1	178,432	△ 574	67.9	170,411	△ 451	64.8
19年	10,045	2,024	3.8	180,072	1,640	68.3	170,027	△ 384	64.5
20年	9,800	△ 245	3.7	179,069	△ 1,003	67.8	169,269	△ 758	64.0
21年	11,304	1,504	4.3	181,851	2,782	68.6	170,547	1,278	64.3
22年	9,178	△ 2,126	3.5	177,693	△ 4,158	66.8	168,515	△ 2,032	63.4
23年	9,210	32	3.5	175,872	△ 1,821	66.0	166,662	△ 1,853	62.5
24年	11,133	1,923	4.2	175,509	△ 363	65.8	164,376	△ 2,286	61.6
25年	11,417	284	4.3	177,364	1,855	66.3	165,947	1,571	62.1
26年	8,059	△ 3,358	3.0	178,011	647	66.5	169,952	4,005	63.4
27年	18,726	10,667	7.0	185,808	7,797	69.3	167,082	△ 2,870	62.3

- 1 社会増減数、転入数、転出数は前年10月中から当年9月中の合計である。
- 2 社会増減率、転入率、転出率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰（パーミル）である。
- 3 平成17年、22年、27年以外の年の推計人口は、国勢調査結果により修正を行っているため、人口異動の増減数と前述の人口推移の増減数とは一致しない。

表6-6 区別社会動態

区名	社会 増減数 (人)	社会 増減率 (%)	転入数 (人)	転入率 (%)	転出数 (人)	転出率 (%)
大 阪 市	18,726	7.0	185,808	69.3	167,082	62.3
北 区	2,713	22.5	13,844	114.7	11,131	92.2
都 島 区	98	0.9	6,537	62.5	6,439	61.6
福 島 区	486	6.8	5,682	79.2	5,196	72.4
此 花 区	105	1.6	3,376	50.7	3,271	49.2
中 央 区	3,704	41.6	14,833	166.7	11,129	125.1
西 区	2,405	26.8	10,895	121.4	8,490	94.6
港 区	244	3.0	4,326	52.7	4,082	49.7
大 正 区	△ 273	△ 4.1	2,361	35.8	2,634	40.0
天 王 寺 区	1,000	13.4	6,718	90.2	5,718	76.8
浪 速 区	2,641	39.3	11,365	169.2	8,724	129.9
西 淀 川 区	174	1.8	4,778	49.9	4,604	48.1
淀 川 区	1,073	6.1	13,150	75.1	12,077	69.0
東 淀 川 区	15	0.1	11,002	62.6	10,987	62.5
東 成 区	494	6.2	5,433	67.7	4,939	61.5
生 野 区	387	3.0	7,587	58.1	7,200	55.2
旭 区	180	2.0	5,007	54.7	4,827	52.7
城 東 区	883	5.4	9,820	59.8	8,937	54.4
鶴 見 区	246	2.2	5,776	51.9	5,530	49.7
阿 倍 野 区	833	7.8	7,065	65.8	6,232	58.1
住 之 江 区	△ 606	△ 4.9	5,114	41.3	5,720	46.2
住 吉 区	674	4.4	8,653	56.2	7,979	51.8
東 住 吉 区	416	3.3	7,160	56.4	6,744	53.1
平 野 区	△ 223	△ 1.1	8,276	41.9	8,499	43.0
西 成 区	1,057	9.3	7,050	61.8	5,993	52.6

1 社会増減数、転入数、転出数は前年10月中から当年9月中の合計である。

2 社会増減率、転入率、転出率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰(パーミル)である。

表6-7 社会増減率、転入率及び転出率(上位7区)

順位	社会増減率		転入率		転出率	
	区名	(%)	区名	(%)	区名	(%)
1	中央区	41.6	浪速区	169.2	浪速区	129.9
2	浪速区	39.3	中央区	166.7	中央区	125.1
3	西区	26.8	西区	121.4	西区	94.6
4	北区	22.5	北区	114.7	北区	92.2
5	天王寺区	13.4	天王寺区	90.2	天王寺区	76.8
6	西成区	9.3	福島区	79.2	福島区	72.4
7	阿倍野区	7.8	淀川区	75.1	淀川区	69.0

社会増減率、転入率、転出率は前年10月1日現在人口1000人に対する比率で、単位は‰(パーミル)である。

表 6-8 社会動態の推移（外国人）

年次	社会増減			転入＋入国			転出＋出国		
	増減数 (人)	対前年 (人)	対前年増加率 (%)	転入数 (人)	対前年 (人)	対前年増加率 (%)	転出数 (人)	対前年 (人)	対前年増加率 (%)
20年	1,559	△ 693	△ 30.8	20,662	78	0.4	19,103	771	4.2
21年	1,635	76	4.9	20,608	△ 54	△ 0.3	18,973	△ 130	△ 0.7
22年	1,345	△ 290	△ 17.7	20,320	△ 288	△ 1.4	18,975	2	0.0
23年	1,003	△ 342	△ 25.4	21,205	885	4.4	20,202	1,227	6.5
24年	2,313	1,310	130.6	20,793	△ 412	△ 1.9	18,480	△ 1,722	△ 8.5
25年	2,617	304	13.1	20,889	96	0.5	18,272	△ 208	△ 1.1
26年	861	△ 1,756	△ 67.1	22,206	1,317	6.3	21,345	3,073	16.8
27年	6,438	5,577	647.7	25,517	3,311	14.9	19,079	△ 2,266	△ 10.6

社会増減数、転入＋入国数、転出＋出国数は前年10月中から当年9月中の合計である。